



6月28日(金)のみうら学・海洋教育研修会の講師、お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンターの里浩彰先生より、次のようなメッセージをいただきました。

「先生方はどうしても、海洋教育=カリキュラム開発(総合で単元開発)と考えてしまい、そこが一つのハードルとなっているという点につきましては、納得できるとともに、改善できればと思いました」

「まずは、普段の授業や既習内容を海洋教育の観点から整理し、次のステップとして、総合での展開を考えると、取組を継続させることにつながるのではと思いました」

「海洋教育授業支援につきましては、可能な限り対応させていただきたいと考えております。また、何校かの先生方を対象に、まとめて実技研修のようなことも可能かと思いますので、引き続きご検討ください」



7月3日(水)、矢作海岸で、学校教育研究会生活科部会の研修会がありました。講師は、観音崎自然博物館の特別研究員、山田博和さん(三崎小、南下浦中卒業)で、内容は、磯観察における児童指導の方法でした。



最初に、「しずかにゆっくりあるく」「ふざけない」

など、児童に示すべき注意事項と、その理由についての説明がありました。ハオコゼやアカクラゲなどの危険な生物についても、写真を交えて説明されました。

続いて、実際に海に入っていました。ヤドカリ、カニ、アゴハゼなど、実物を見ながら説明を受け、参加者から歓声も上がっていました。ミズクラゲやアカクラゲの実物も流れてきて、実地研修の意義を感じました。海藻も



数種類見られ、先生方も興味を持ったようです。

終了間際に、半分砂に埋まって眠っていた(らしい)クサフグを発見し、捕獲しました。(右の写真)クサフグは、他の魚を攻撃する性質があるので、他の生き物と一緒に飼うのは難しいというお話もありました。

最後に、山田さんは、ビーチコーミングの話にも触れ、短時間に、タカラガイの貝殻を5種類も発見したそうです。

この研修を生かして、子どもたちに楽しい磯観察を体験させてほしいと思います。



初声小学校の玄関の水槽です。ここにいる7~8匹のカニは、すべて校舎内やグラウンドなど、学校の敷地内で捕獲したものです。

一番川から、学校へ迷い込んだのでしょうか。種類としては、アカテガニがほとんどだということです。海や川から近い学校ならではですね。